

第2章 松浦市の特徴

(1) 地域の概要

① 地勢・沿革

本市は、1955年(昭和30年)に旧松浦市として市政を開始し、2006年(平成18年)に旧福島町、旧鷹島町と合併し、現在の松浦市となりました。本市内には、星鹿町、御厨町、志佐町、調川町、今福町、福島町、鷹島町が位置しています。

本市は長崎県の北松浦半島北部に位置し、北は玄界灘から伊万里湾の海域に面しています。また、内陸部は平地は少なくその大部分を丘陵地が占めており、主な河川として、志佐川・今福川が流れています。西は平戸市、南は佐世保市、東は佐賀県伊万里市に接し、130.55km²の市域面積を有しています(図12参照)。

本市の歴史は、その記録としては律令時代までさかのぼり、平安時代後期には松浦党と呼ばれる水軍を中心とした武士団が結成され、元寇でも活躍しました。その後、江戸時代には北松浦半島一帯で石炭が発見され、明治時代から戦後にかけて石炭産業(北松炭田)で栄えました。

現在は、石炭火力発電所4基370万kWが立地する「エネルギーのまち」として発展を続けています。また、2019年(平成31年)4月27日には、国内でも有数のアジの水揚げが行われる本市の特色を活かし「アジフライの聖地宣言」を行い、「松浦アジフライ憲章」を定め、地域資源を活用した更なるまちの発展に取り組んでいます(図11参照)。



図11 松浦アジフライ憲章

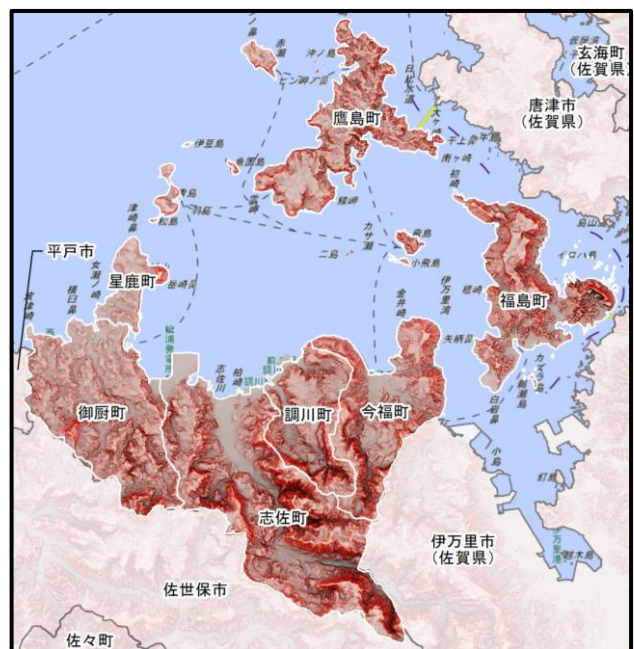
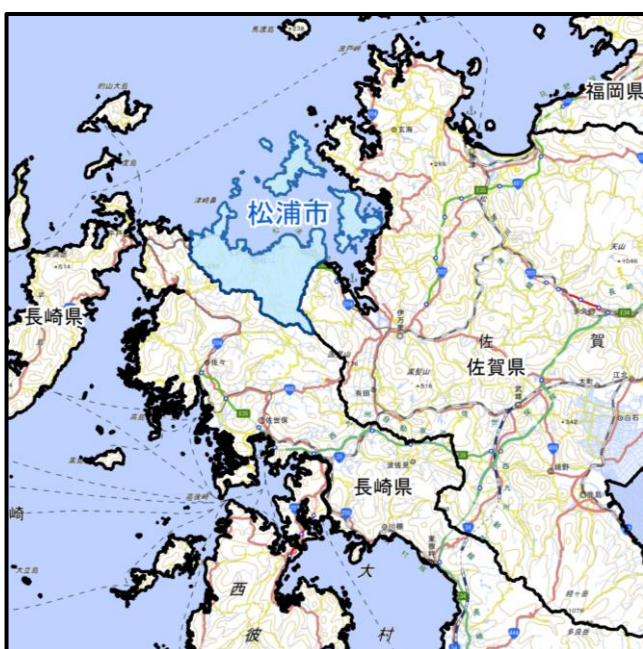


図12 本市の位置と地形(赤色立体地図)

② 人口・世帯

本市の2020年(令和2年)12月31日現在の人口は、**22,137人**、世帯数は**10,138世帯**となっています(図13参照)。

人口及び世帯数の推移をみると、人口は2006年(平成18年)(27,640人)以降減少を続けており、世帯数は2009年(平成21年)から2011年(平成23年)にかけて増加傾向にあったものの、それ以降は減少傾向となっています。

2015年(平成27年)10月に策定した「まち・ひと・しごと創生 長期人口ビジョン」では、**2030年(令和12年)の将来人口は19,671人**、**2050年は16,147人**と、人口の減少傾向は継続すると予想しています。

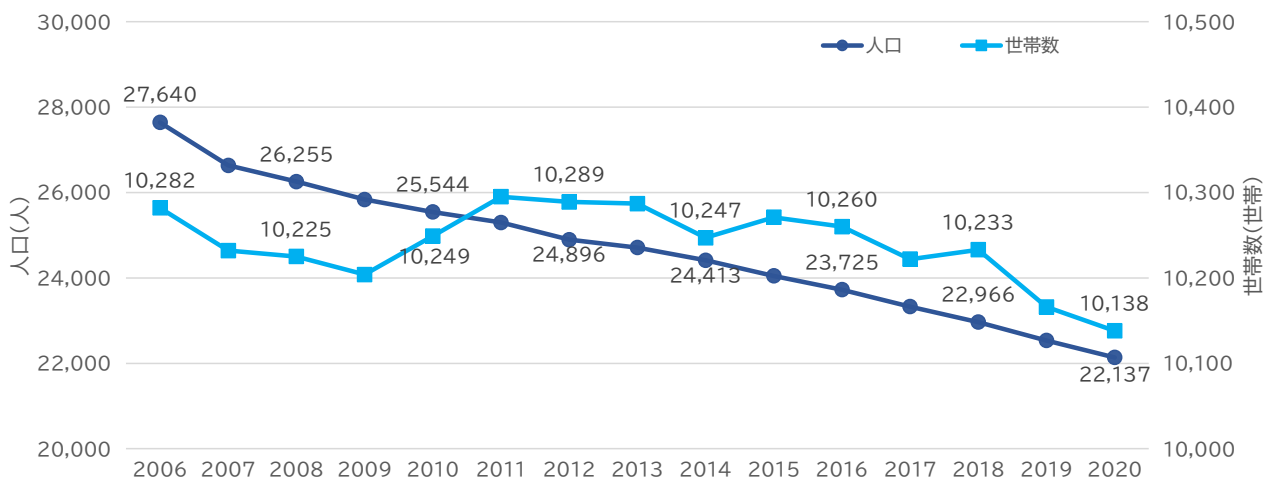


図13 本市の人口及び世帯数の推移

③ 気候

本市における主な気象要素の平年値について、**降水量は2195.2mm**、**平均気温は16.6度**、**日照時間は1831.8時間**となっています(表6参照)。九州内のその他の都市と比較すると、平均気温が低く、また日照時間も短くなっています。

表6 本市及びその他九州内の気象観測所における主な気象要素の平年値

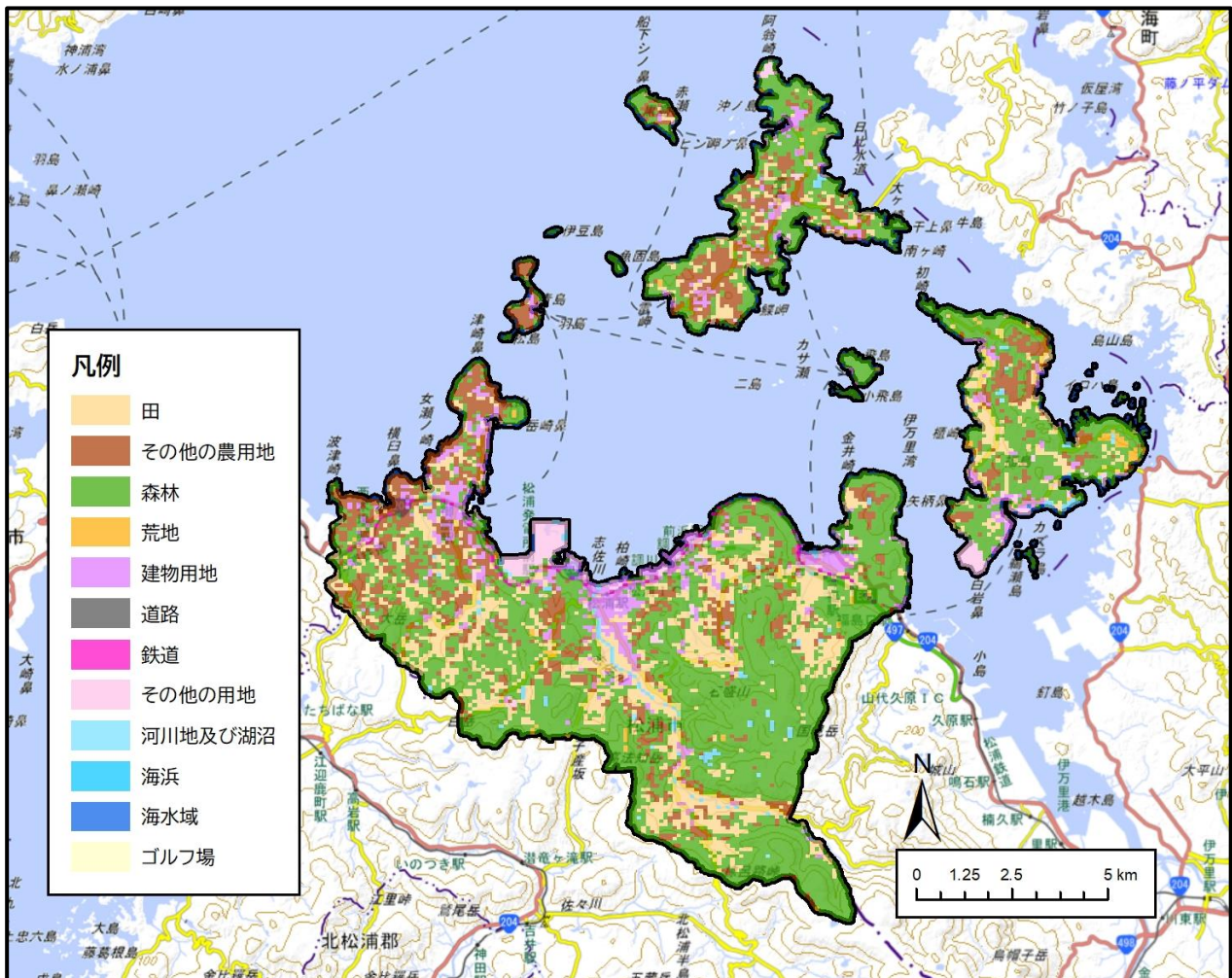
		降水量(mm)	平均気温(度)	日照時間(時間)
長崎県	松浦市	2195.2	16.6	1831.8
	平戸市	2206.0	16.3	1777.7
	佐世保市	1989.0	17.2	1922.9
	長崎市	1894.7	17.4	1863.1
佐賀県	佐賀市	1951.3	16.9	1970.5
福岡県	福岡市	1686.9	17.3	1889.4
大分県	大分市	1727.0	16.8	1992.4
熊本県	熊本市	2007.0	17.2	1996.1
宮崎県	宮崎市	2625.5	17.7	2121.7
鹿児島県	鹿児島市	2434.7	18.8	1942.1

注:松浦市の観測値は2011年(平成23年)~2020年(令和2年)の平年値を、その他の都市は1991年(平成3年)~2020年(令和2年)の平年値を示しています。

出典:「過去の気象データ検索」(気象庁)より作成

④ 土地利用

本市における土地利用について、全体的には「森林」の占める割合が大きいです。特に星鹿町や御厨町、鷹島町では、「田」や「その他の農用地」の分布が広がっています。また、今福町や、調川町から志佐町、御厨町にかけての沿岸部には、松浦魚市場や石炭火力発電所が位置しており、「建物用地」の分布が広がっています(図 14 参照)。



出典:「国土数値情報(土地利用細分メッシュデータ(平成 28 年度))」(国土交通省)

図 14 土地利用図

⑤ 産業

ア 農業

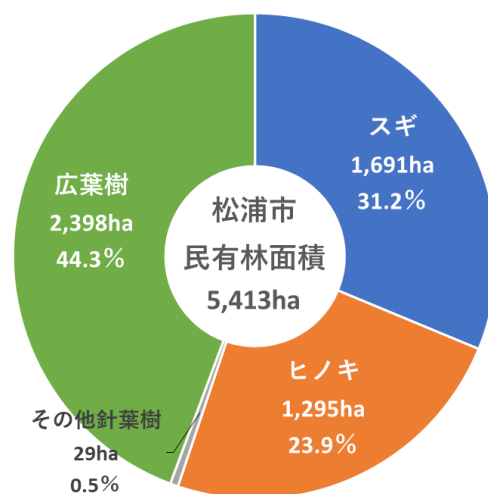
2020 年(令和 2 年)の農業センサスによれば、松浦市の農地面積は 1,248ha (うち、田 853ha、畑 363ha、樹園地 32ha)となっています。また、法人及び団体経営を行っている農業経営体は 17 団体、農業従事者数は 926 人で 65 歳以上の従事者が全体の約 75%(699 人)を占めています。

農業産出額は 42 億 4 千万円であり、最も産出額が多い品目は肉用牛の 14 億 9 千万円となっています。次いで、米の 6 億 7 千万円が多く、野菜は 4 億 7 千万円、花きは 3 億 6 千万円、工芸作物は 2 億円、果実は 1 億 2 千万円となっています。

イ 林業

2023年(令和5年)の長崎県の林業統計によれば、松浦市の民有林面積は5,413haであり(図15参照)、林業従事者数は16人(松浦市森林整備計画、2023年(令和5年))となっています。

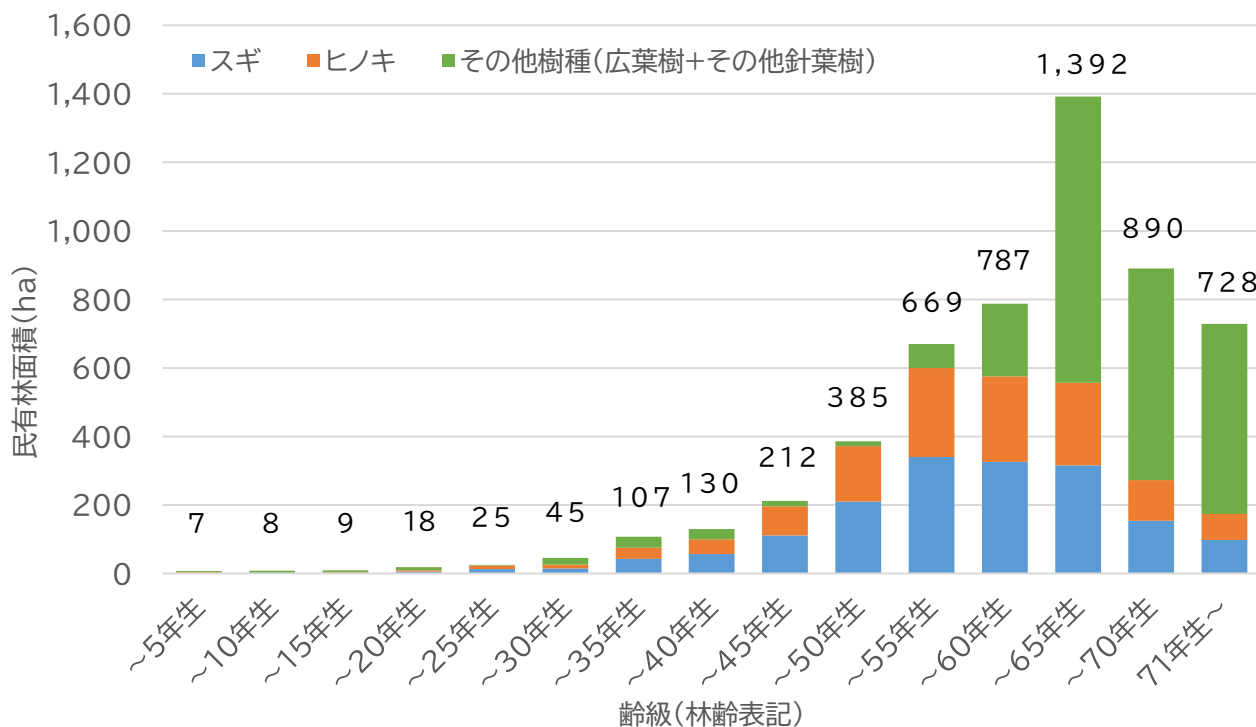
2021年(令和3年)の松浦市の民有林の伐採面積は65ha(うち、主伐2ha、間伐63ha)であり、搬出材積量は6,778m³(うち、針葉樹6,418m³、広葉樹360m³)となっていますが、新規の造林は行われていません。



出典:「長崎県の森林・林業統計」(長崎県、2023年(令和5年)9月)より作成

図15 民有林面積の内訳

樹種別の林齢(植樹後の年数)ごとの民有林面積をみると、「~5年生(1齢級)」から「~30年生(6齢級)」の森林が極端に少ないこと、「~55年生(13齢級)」以上の森林で広葉樹の面積が極端に多いことが特徴として挙げられます(図16参照)。これらは、松浦市の民有林には成熟した「広葉樹」のバイオマス*が多くあり、ここ30年の新規植林が低調であったことを示しています。



注:年齢級とは、林齢を5年ごとに区切った級数のことを言います。

出典:「長崎県の森林・林業統計」(長崎県、2023年(令和5年)9月)より作成

図16 年齢別・樹種別民有林面積の内訳

ウ 水産業

2018年(平成30年)の漁業センサスによれば、本市の水産業の漁獲物等販売額は60億6千万円となっています。また、漁港は12箇所存在し、海面漁業従事者数は504人となっています。

松浦魚市場は、1979年(昭和54年)に松浦市が開設した地方卸売市場で、開設以来、旋網漁業によるアジ、サバ、イワシ等を主体とした水揚基地として発展し、**全国有数の水揚量を誇る産地市場**となっています(図17参照)。

松浦魚市場は、隣接する日本遠洋旋網漁業協同組合の冷凍庫等と連結しており、陸揚げから選別・荷捌き・冷凍・出荷に至るまで一貫して一連の施設内で行う、**日本初の「高度衛生化閉鎖型施設」**となっています。



図 17 松浦魚市場の様子

エ 製造業

2021年(令和3年)の経済センサスによれば、松浦市の製造業は31社あり、従業者数は1,645人となっています。製造品出荷額は約297億9千万円であり、産業分類別ではプラスチック製品製造業が約71億8千万円と最も多くなっています。次いで、輸送用機械器具製造業が約69億3千万円、食品製造業が約49億9千万円、金属製品製造業が約12億2千万円、繊維工業が約11億2千万円となっています。

オ 石炭火力発電所

本市内には、九州電力株式会社と電源開発株式会社がそれぞれ運営する**石炭火力発電所**が稼働しており、発電所出力は合計370万kW、**西日本の約50万世帯に電気を供給**しています(図18参照)。



図 18 石炭火力発電所の様子

九州電力株式会社が運営する石炭火力発電所では下水汚泥バイオマス*やアンモニアの混焼、電源開発株式会社が運営する石炭火力発電所では木質バイオマス*の混焼が進められ、**石炭火力発電所の低炭素化に向けた動き**が進んでいます。

⑥ エネルギー消費量の推計

本市のエネルギー消費量について、2020年(令和2年)の長崎県のエネルギー消費量(経済産業省資源エネルギー庁資料)に、部門ごとに長崎県と松浦市の活動量比を乗ずることで、エネルギー種別及び消費部門別のエネルギー消費量を推計しました(図19参照)。

エネルギー種別でみると、最も多くのエネルギー消費を伴うエネルギー種別は「化石燃料等」であり、全体の約68%を占めています。次いで「電力」が約24%、「ガス類」が約6%であり、「再生可能エネルギー」は約2%となっています。

消費部門別でみると、「農林水産業」が最も高く約31%となっており、次いで「運輸部門」が約28%、「家庭部門」が約15%、「業務他部門」が約14%、「建設・製造業」が約11%となっています。

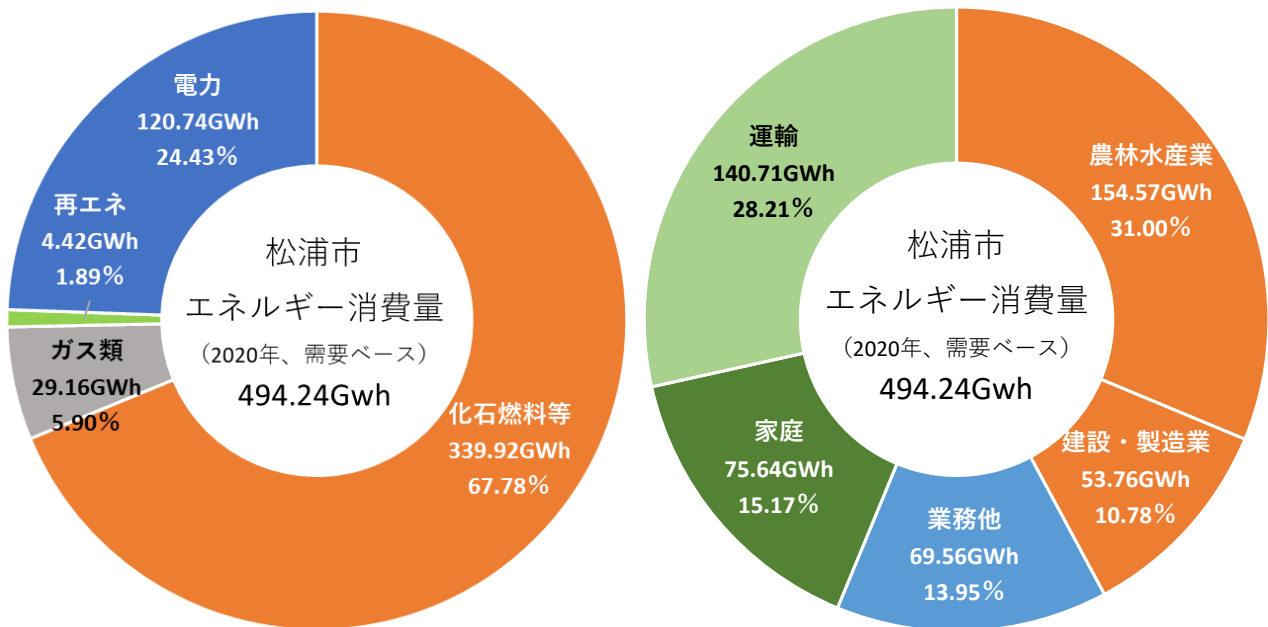


図 19 エネルギー消費量 (左：エネルギー種別、右：部門別)